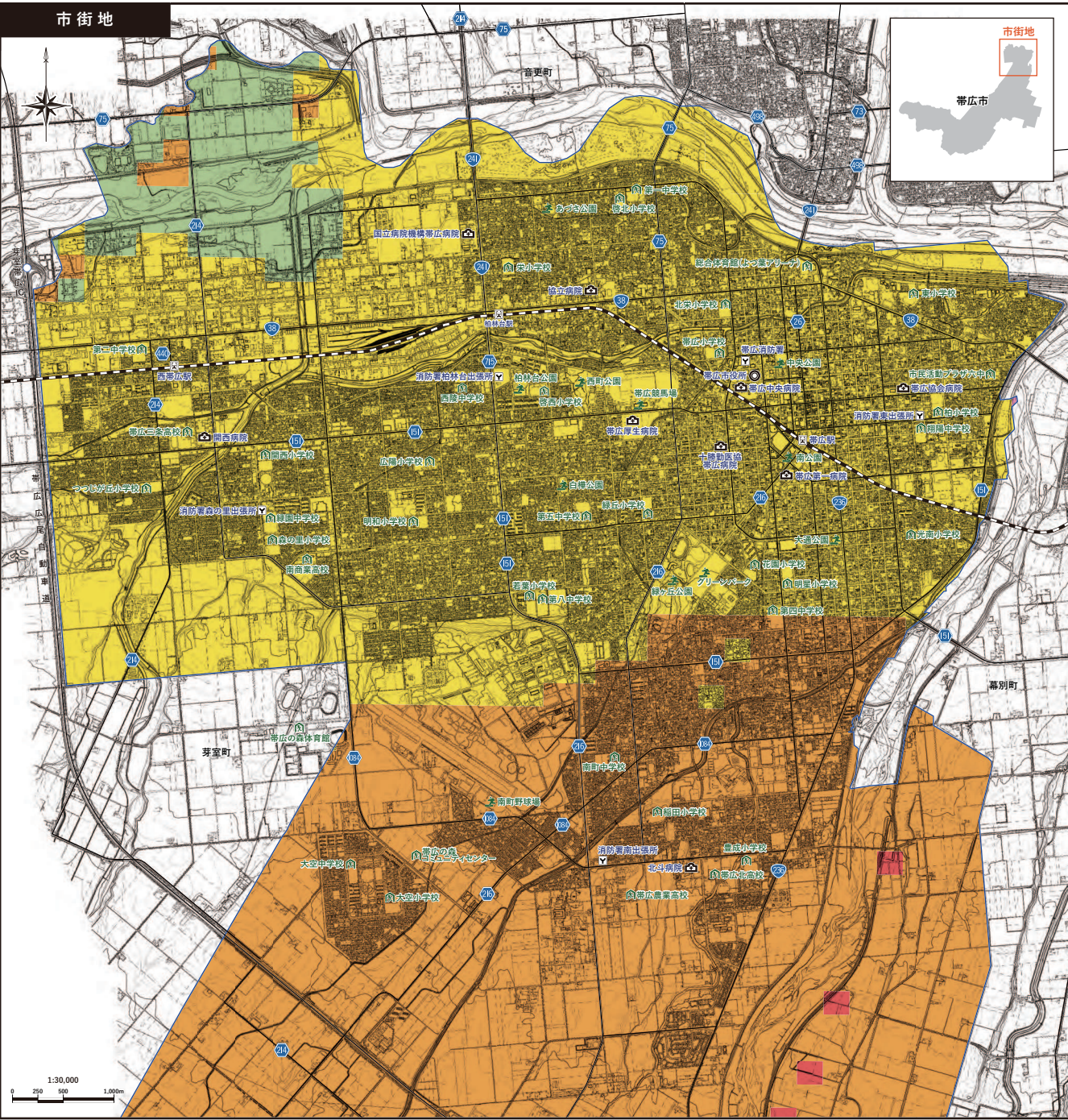
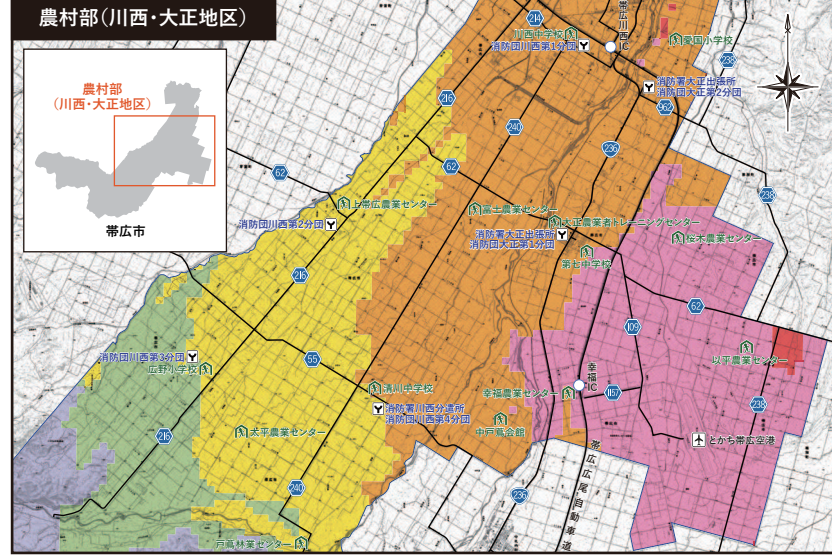


お問い合わせ先
帯広市都市環境部都市建築室建築開発課建築指導係 (TEL: 0155-65-4181)



「測量法に基づく国土地理院長承認 (複製) R 2JHF 518」
「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」



揺れやすさマップについて

揺れやすさマップは、帯広市で発生すると考えられる想定地震のうち、最も揺れが大きき地震について、地盤情報などから計算された揺れの大きき地域ごとの分布を表しています。
想定地震については、北海道が公表した「平成28年度地震被害想定調査結果(平成30年2月)」のうち、十勝管内の被害が最大となる「十勝平野断層帯主部地震」を設定し、揺れやすさマップを作成しています。

注意!
ここで表示した震度は、地震の規模や震源の距離から予測される平均的な揺れの強さであり、地震の発生の仕方によって、揺れは強くなったり、弱くなったりすることがあります。

帯広市で想定される地震とは?

過去の代表的な地震発生の事例として、釧路沖地震や十勝沖地震が大きな被害を及ぼしており、被害想定の対象となる大規模地震の発生形態は海溝型地震を中心として考えられてきました。しかし、平成7年の阪神・淡路大震災、平成28年の熊本地震は、浅い活断層がずれ動いたのが原因とされる活断層型地震であり、甚大な被害が生じました。活断層型地震は地表に近い位置で起こるため激しい揺れをともない、局所的に大きな被害を発生させます。

十勝平野断層帯は、帯広市東部を縦断する活断層です

十勝平野断層帯は、十勝平野にほぼ南北に分布する活断層帯であり、十勝平野断層帯主部と光地断層からなります。十勝平野断層帯主部では、M7.4程度の地震が発生すると推定されています。(M:マグニチュード)

①「震度」と「マグニチュード」は異なります!
「震度」とは、ある地点で観測された揺れの大きさ「マグニチュード」とは、地震そのものの大きさ(規模)

1つの地震に対して「マグニチュード」は1つですが、「震度」は震源からの距離や地盤の状況により観測地点で異なります。

想定地震の断層位置図

揺れやすさマップの凡例

震度5弱	震度5強	震度6強	震度7
弱 ← → 強	弱 ← → 強	弱 ← → 強	弱 ← → 強
<p>【ひとの体感】恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる</p> <p>【屋内の状況】棚にあるものや本が落ちることがある</p> <p>【屋外の状況】電柱が揺れているのがわかる</p>	<p>【ひとの体感】物につかまらないと歩くことが難しい</p> <p>【屋内の状況】棚にあるものや本が落ちるものが多い</p> <p>【屋外の状況】自動車の運転が困難になる</p>	<p>【ひとの体感】立っていることが困難になる</p> <p>【屋内の状況】固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある</p> <p>【屋外の状況】耐震性の低い木造住宅は、建物が傾いたりすることがある</p>	<p>【ひとの体感】はわなにと動くことができない</p> <p>【屋内の状況】固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものも多くなる</p> <p>【屋外の状況】耐震性の高い木造住宅で、壁や柱が破損することがある</p>
自分の意思では行動できない	自分の意思では行動できない	自分の意思では行動できない	自分の意思では行動できない

避難施設等

- 指定避難所
- 広域避難場所
- 帯広市役所
- 病院
- 消防署
- 空港
- JR 駅
- JR
- 主要な道路
- 市界